

教育行政の基本方針

始めに、新年度に臨む教育行政の基本方針を申し上げます。

わが国が平和で民主的な国家として発展し、国際社会に貢献していくためには、「教育の果たす役割」に負うところが極めて大きいと考えます。

にかほ市教育委員会は、教育が「人格の完成を目指し、社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民を育成する」という教育基本法に即して、さらには秋田県教育の指針にある「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目標に、教育の充実・発展に努力してきました。

現在世の中では、戦争や紛争、自然災害等の影響による心身の不安定、不安感が蔓延しているのではないのでしょうか。新型コロナウイルス感染症がもたらした閉塞感は解消されたとはいえ、元日に発生した能登半島地震による大きな被害を目の当たりにし、日々の生活にゆとりや潤いを感じる事は難しい現状と捉えています。このような環境の中で、児童生徒の教育や生涯学習にもさまざまな影響が出ており、教育現場では、学力の定着や向上に努めながら、同時に心のケアにも配慮するなど、依然として大きな負担が生じております。

また、現代社会の高度情報化、グローバル化に伴い、ICT教育や外国語教育など、新たな視点や方法を導入した教育への挑戦も強く求められております。こうした厳しくも可能性を秘めた社会を生きていく力を育むために、児童生徒をはじめ、地域に暮らす学習者に対して、責任ある教育実践を進めていくことが、私たち教育委員会に課せられた大きな責務であります。

そこで、令和6年度の教育委員会では「超にかほ一体」を合い言葉に、3年目を迎える「にかほ市教育大綱」を基本に、これまでの地域学などを礎として、より一層、本市の3地域がそれぞれ持っている教育資源をフル活用し、協働して教育施策に取り組み、にかほ市の教育が秋田県の「ふるさと教育」を牽引したいと考えています。

学校教育においては、学習のきっかけに「わくわく感」「ドキドキ感」「はてなのマークが頭をよぎる」「楽しくて仕方ない」など、楽しいの「楽」（らく）

と学びの「学」（がく）を意識した「楽（らく）×学（がく）」を教職員や指導者が意識して、教育活動を展開できるように、工夫と改善を進めます。

少子高齢化が急激に進行している現在を、私たちはとかくマイナス思考で捉えてしまいがちになります。少子化による学校再編、高齢化による孤独や孤立、そして、コミュニティの脆弱化などは、暗いイメージに関連付けてしまいます。

しかし、私たち教育委員会は、この現状を決して悲観しておりません。子どもたち一人ひとりの個性を把握し、長所を伸ばすきめ細かな教育を展開できるチャンスと捉えています。また、高齢者が学校というコミュニティで、子どもたちとのふれあいを通して、自身の子ども時代を思い出し、生きがいを再認識できるなど、新しい仕組みづくりを考え、既存の学校機能の概念を超えて学校を活性化したいと思います。こうした思いも一つの要素に、学校環境適正化そして学校再編計画を推進して参ります。

教育委員会は、教育行政を預かるものとしての「責任の重大さ」を改めて深く認識しております。令和6年度は、さらに英知を結集して「未来を拓く教育」「地域に根ざし信頼される教育」を進めるために、全力で努力して参ります。

次に、「第2次にかほ市総合発展計画（後期基本計画）」に基づく主な施策について申し上げます。

●「子育てしやすいまち」

○ 児童生徒の学力向上及びたくましい心と体の育成について

令和6年度は、これからの社会をたくましく生き抜くための力と確かな学力を育むことを大きな目標に掲げ、学校教育の充実に努めて参ります。具体的には、自ら課題を見付け、解決の見通しを持ち、他者との関わりを通して、主体的に課題を解決しようとする児童生徒の育成であります。近年の調査結果から、学習する意欲が低く、基礎的・基本的な知識・技能等の定着に課題がある教科も見られます。学習意欲を高め、基礎学力の定着を図るために、まずは、安心して生活し、学習に取り組むことができるような学年・学級づくりに努めるとともに、一人ひとりの問いを生かし、他者と協働しながら課題を解決し、達成感や充実感を持たせる授業づくりに継続して取り組んで参ります。

よりよい学年・学級づくりのためには、言うまでもなく児童生徒と教師、児

児童生徒同士の良好な人間関係づくりが大切になってきます。そのために楽しい学校生活を送るためのアンケート・Ｑ－Ｕ検査等の結果を学級づくりに活用し、児童生徒の理解に関する研修を実施して参ります。

また、一人ひとりの学びを支えるために「１人１台端末」を、更に有効活用できるよう推進して参ります。用語検索や学習支援ソフト、協働学習支援ツールを活用することにより、自分の疑問を追究する個別最適な学びを深めていくとともに、児童生徒の考えを可視化し、相互に話し合い、よりよい学びにつながる協働的な学びを支えて参ります。

外国語では、教育指導員や外国語活動支援員、ＡＬＴ等を活用し、アウトプットする場面を意図的に設定し、外国語を使ったコミュニケーション能力を高めて参ります。小学校の理科においては、夢中になって考え、解決しようとする児童を育成するために、実験等に関する教職員研修会を開催し、楽しい理科の授業を推進して参ります。さらに、よりよい生活や人間関係の構築、自己の生き方について深く考えるために、道德教育の充実も重点に掲げ、取り組みを推進して参ります。

○ 地域を活かした教育環境の充実について

本市の歴史や文化、防災教育、最新科学などを学ぶ「にかほ地域学」を中核としたふるさと教育を推進するとともに、鳥海山・飛島ジオパークと連携し、自然遺産などを学ぶ「にかほジオ学」を継続して参ります。市内の教育施設や地域人材等を積極的に活用していくことで、ふるさとにかほのよさを実感し、ふるさとにかほを愛し、ふるさとにかほを支えていく人材を育成して参ります。

また、中学校においては、「にかほ市若者１００人会議」との連携や地元企業との繋がりを重視した企業説明会の開催等を通して、働く人の講話を聞いたり、実際に仕事を体験するなど地域に根ざしたキャリア教育を進めているほか、秋田大学との連携協定に基づく、市内中学校を卒業した学生を講師とした講演会を行います。

これらの事業を通して、将来の目標に繋がる進路選択ができるよう支援して参ります。

○ 新たな教育課題への対応について

児童生徒の実態や特性に対する保護者の理解を深め、関係機関と連携し、適切な教育相談を推進して参ります。不登校児童生徒への対応として、昨年4月に開設した教育支援センター「ぱすてる」を中心に、学校、教育研究所不登校児童生徒対応教育指導員、子育て支援課や関係機関と連携しながら、相談体制を整えており、一人ひとりの心の不安を軽くし、心の居場所づくりや社会的自立を支援して参ります。

また、これからの高度情報化社会に適応できる児童生徒を育てるために、情報活用能力の向上を引き続き目指して参ります。ICT支援員を配置することで、より効果的な活用を目指し、研修や日常の授業支援等を通して、教員のICT活用能力の向上に努めて参ります。

プログラミング教育においては、仁賀保高校や関係機関と連携し、本市で開催されているWRO秋田中央地区大会への積極的な参加を目指すなど、更に充実を図って参ります。

● 「人と文化が豊かなまち」

○ 生涯学習の推進と充実について

多様化・高度化する市民の学習ニーズや、生活スタイルに配慮した学習機会の提供と、学習内容の充実を図ることで魅力的な学びの場を創出し、あらゆる世代の市民が生涯にわたり、意欲を持って学び続けることができるような環境を整備して参ります。各種講座等の開催にあたっては、市広報や情報誌以外にもSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用して広く情報発信して参ります。

また、障がいのある方も参加できるような講座の開催について、関係機関と連携しながら、実施に向けて検討して参ります。

今後も、3公民館、学校、家庭、地域が連携を図り、それぞれの年齢層における学習の推進を実践して参ります。

○ 芸術文化の振興と支援について

市民の多くが芸術文化活動に興味を持ち、参加できるような発表の場を設けるとともに、学校との連携により子どもが芸術鑑賞できる機会、あるいは芸術

文化団体等による体験創作教室や講座を開催することで、幅広い年齢層が芸術文化に触れる機会を提供して参ります。芸術文化団体の活動や育成についても継続的に支援し、若い世代の会員等を増やすための交流機会を創出するなど、芸術文化活動の振興に努めて参ります。

また、文化祭においては、慣例にとらわれることなく学校や企業と連携した「参加型交流イベント」など、新しい目線で取り組むことで事業内容の充実を目指して参ります。

○ 図書館の充実について

幅広い年齢層から図書館を利用してもらうため、特に利用の少ない中・高校生が興味を持つような図書選定による充実にも力を入れて、来館者数の増加に繋げて参ります。

また、ブックスタート事業やお話会など、未就学児と保護者が絵本に触れ合える機会の提供、小・中学校における校外学習を通した図書館の活用情報の周知、学校図書館との連携強化、県立図書館をはじめとする県内公立図書館との相互貸借事業による資料の貸出サービスの充実、高齢者施設への本の貸出など、各世代に応じた読書活動の推進に努めて参ります。

○ 「フェライト子ども科学館」の充実について

市内全小学校の3年生及び5年生を対象とした「移動科学実験教室」を引き続き実施いたします。この実験教室は、本市の特色ある理科教育事業として、3年生は磁石、5年生は電磁石を学習テーマに、科学館職員が小学校に出向いて、あるいは科学館で特別授業を行います。

このほか、米村でんじろうサイエンスプロダクション実験教室の開催や、WRO秋田中央地区予選会事業等、プログラミング教育を含めた幅広い科学に関する学習機会を提供して参ります。

○ 「白瀬南極探検隊記念館」の充実について

これまでも収蔵資料のデジタル化に取り組んでおりましたが、令和6年度より、市内博物館系4施設が共同連携を図る「にかほ市デジタルアーカイブ事業」に拡張して取り組みます。収蔵資料を取り扱う各館には、資料の分散所蔵、資

料の劣化や逸失の恐れ、地元研究者の高齢化、市民の歴史への関心低下などの課題があります。この課題解決に向け、収蔵資料をデータベース化し、「デジタル・アーカイブ」としてインターネット上で公開し、研究者やメディア等も活用できる仕組みづくりを目指します。

また、こうした取り組みによって「にかほ地域学」の推進、研究者らとの「関係人口」の増加、潜在的来館者へのアプローチ、市民のシビックプライドの醸成など、活性化を図って参ります。

○ 史跡・名勝・天然記念物の保護・管理について

国指定天然記念物獅子ヶ鼻湿原については、令和4年度まで専門家の先生方による学術的な環境調査を行ってきております。その調査結果をもとに、現在、向こう10年間の保存や管理、公開活用の方角性を定める保存活用計画の策定を進めており、令和6年度末の完成を予定しております。

埋蔵文化財関係では、若者支援住宅整備事業に伴う行ヒ森遺跡発掘調査の整理作業を進めております。出土した様々な時代の遺構や遺物等の学術的な成果を記録した発掘調査報告書を、来年度作成する予定としております。

また、象潟前川地区景観保全型ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財の分布調査については、来年度工事が予定されている47.6ヘクタールの調査を終了しております。来年度以降も、当該ほ場整備事業の進捗状況を確認しながら、令和8年度まで、年次計画を立て調査して参ります。